

# 釜石市復興事業地区



# 防潮堤の整備の考え方

国の提言及び岩手県の復興計画に基づき、2つのクラスの津波に対して防潮堤の整備目標高さを設定します。

## 1. 津波防護レベル(レベル1)

- 頻度の高い津波(おおむね数十年から百数十年程度で起こりうる津波。釜石では明治三陸津波や昭和三陸津波クラスを指す。)に対しては、防波堤や防潮堤で内陸部への浸水を限りなく小さくします。

## 2. 津波減災レベル(レベル2)

- 最大クラスの津波(頻度の高い津波をはるかに上回り、防波堤や防潮堤といった構造物による対策の適用限界を超える津波。釜石では東日本大震災津波クラスを指す。)に対しては、ハード整備とソフト対策を組み合わせ、確実に生命を守ります。

## 3. 防潮堤の整備高さ

- 防潮堤の整備は「津波防護レベル(レベル1)」に対応した高さで整備します。

# 各湾の新たな防潮堤の高さ

区分	大槌湾	両石湾	釜石湾	唐丹湾
対象地区 (21地区)	室浜・片岸 鵜住居・根浜 箱崎・箱崎白浜 (6地区)	両石・水海 桑ノ浜・仮宿 (4地区)	釜石東部 嬉石・松原、 平田・尾崎白浜 (4地区)	佐須・花露辺 本郷・小白浜 片岸・荒川 大石(7地区)
被災前の 防潮堤の高さ	標高 6.4m	標高 6.4～12m	標高 4～6.1m	標高 11.8m
新たな 防潮堤の高さ	標高(根浜を除く) 14.5m	標高 12m	標高 6.1m	標高(花露辺を除く) 14.5m

※防潮堤の高さは標高で表している。※釜石湾では釜石港湾口防波堤の復旧を前提としている。

※まちづくり協議会・地権者連絡会での協議結果により、根浜地区では標高5.6mで復旧、花露辺地区は防潮堤は整備せずに住民が高台に移転することになっている。

※鵜住居川(大槌湾)及び甲子川(釜石湾)河口部には防潮堤と同じ高さの水門を整備予定。

# 地区の復興まちづくりの取組み状況

	事業	工事概要	着工時期 (準備工含)	完了時期 (予定)	施工業者等
室 浜	防災集団移転促進事業	整備戸数 25 戸(自 18 戸 公 7 戸) 用地造成、集落道ほか	平成 26 年 6 月	平成 27 年 10 月	委託：岩手県土地開発公社 「戸田建設・青紀土木特定共同企業体」
	漁業集落防災機能強化事業				
片 岸	被災市街地復興土地区画整理事業	施行面積 約 22.7 h a	平成 25 年 11 月	平成 31 年 3 月	委託：UR 都市機構 「大林・熊谷・東洋・復建エンジニアリング・中部復建釜石市片岸・鶴住居地区震災復興事業共同企業体」
鶴住居	被災市街地復興土地区画整理事業	施行面積 約 49.2 h a			
	津波復興拠点整備事業	小中学校、幼稚園、駅前周辺交流拠点等 用地造成			
根 浜	防災集団移転促進事業	整備戸数 39 戸(自 31 戸 公 8 戸 ) 用地造成、集落道ほか	平成 26 年 6 月	平成 28 年 2 月	委託：岩手県土地開発公社 「戸田建設・青紀土木特定共同企業体」
	漁業集落防災機能強化事業				
箱 崎	防災集団移転促進事業	整備戸数 59 戸(自 31 戸 公 28 戸) 用地造成、集落道ほか	平成 25 年 12 月	平成 28 年 3 月	C M 方式：釜石市北ブロック復興整備 事業設計施工等業務 「戸田・青紀土木・福山・三和技術・ 釜石測量設計共同提案体」
	漁業集落防災機能強化事業				
箱崎 白浜	防災集団移転促進事業	整備戸数 19 戸(自 10 戸 公 9 戸) 用地造成、集落道ほか		平成 28 年 3 月	
	漁業集落防災機能強化事業 (道路事業含む)				
仮 宿	漁業集落防災機能強化事業	用地造成ほか 整備戸数 4 戸(自 4 戸)	平成 26 年 11 月	平成 27 年 9 月	C M 北ブロックに組み込み発注
桑ノ浜	防災集団移転促進事業	整備戸数 19 戸(自 11 戸 公 8 戸) 用地造成、集落道ほか	平成 26 年 6 月	平成 28 年 3 月	委託：岩手県土地開発公社 「戸田建設・青紀土木特定共同企業体」
	漁業集落防災機能強化事業				
両 石	防災集団移転促進事業	整備戸数 119 戸(自 70 戸 公 49 戸) 用地造成、集落道ほか	平成 25 年 12 月	平成 29 年 3 月	C M 方式：釜石市北ブロック復興整備 事業設計施工等業務 「戸田・青紀土木・福山・三和技術・ 釜石測量設計共同提案体」
	漁業集落防災機能強化事業 (道路事業含む)				
水 海	都市公園事業	公園整備	平成 26 年 1 月	平成 31 年 3 月	土砂仮置場整備工事を先行発注済
東 部	津波復興拠点整備事業	大町～東前の一部かさ上げ・道路整備等	平成 25 年 12 月	平成 30 年 3 月	C M 方式：釜石市中央ブロック復興整備 事業設計施工等業務 「釜石市中央 ブロック復興整備事業共同提案体」 ( (株) 熊谷組・(株) 小澤組・(株) 新日・ 日鉄鉱山コンサルタント(株) ) ※グ リーンベルト・新浜町の整備を除く
	漁港施設機能強化事業	新浜町～東前の一部かさ上げ・道路整備 等	平成 25 年 12 月	平成 30 年 3 月	
	社会資本整備総合交付金事業	グリーンベルトの整備	平成 27 年 1 月	平成 28 年 3 月	
嬉石 松原	被災市街地復興土地区画整理 事業	施行面積 約 12.9 h a	平成 25 年 12 月	平成 31 年 3 月	
平 田	被災市街地復興土地区画整理 事業	施行面積 約 22.7 h a	平成 25 年 12 月	平成 31 年 3 月	C M 方式：釜石市南ブロック復興整備 事業設計施工等業務 「竹中土木・吉田測量設計・国土開発 センター・山長建設共同提案体」
尾崎 白浜	防災集団移転促進事業	整備戸数 10 戸(自 5 戸 公 5 戸) 用地造成、避難路ほか		平成 27 年 9 月	
	漁業集落防災機能強化事業 (道路事業含む)			平成 27 年 6 月	
佐 須	漁業集落防災機能強化事業	用地造成ほか 整備戸数 5 戸(自 5 戸)			
花露辺	防災集団移転促進事業	整備戸数 17 戸(自 4 戸 公 13 戸) 集落道ほか	平成 25 年 5 月	平成 25 年 8 月	完了
	漁業集落防災機能強化事業			平成 27 年 3 月	委託：UR 都市機構、株木建設(株)東京支店
本 郷	防災集団移転促進事業	整備戸数 24 戸(自 12 戸 公 12 戸) 用地造成、集落道ほか	平成 25 年 12 月	平成 27 年 8 月	C M 方式：釜石市南ブロック復興整備 事業設計施工等業務 「竹中土木・吉田測量設計・国土開発 センター・山長建設共同提案体」
	漁業集落防災機能強化事業				
小白浜	防災集団移転促進事業	用地造成ほか 整備戸数 55 戸(自 25 戸 公 30 戸)		平成 28 年 3 月	
唐丹 片岸	防災集団移転促進事業	用地造成ほか 整備戸数 4 戸(公 4 戸)	平成 27 年 3 月		
荒 川	防災集団移転促進事業	用地造成ほか 整備戸数 9 戸(自 1 戸 公 8 戸)	平成 27 年 6 月		
大 石	漁業集落防災機能強化事業	集落道ほか 整備戸数 3 戸(公 3 戸)	平成 29 年 3 月		

# 復興まちづくり基本計画のポイント

地区別復興土地利用計画を策定するにあたり、安全確保と生活再建の観点から3つの要点について考え方を示します。

## 1. 安全確保の考え方

- 住民の避難を軸に、土地利用・避難施設・防災施設の整備などを組み合わせ、総合的に安全を確保します。

## 2. 住まいの再建

- 震災で住宅を失い、自力では住宅の確保が難しい方々のため、災害公営住宅を整備します。
- 住まいを失うことがないように、多重防災\*により一定の安全性を確保した住宅用地を確保します。

\* 多重防災：道路や公園などをかさ上げし、防潮堤を超えてくる津波の勢いを弱くする方法

## 3. 避難のしくみづくり

- 確実に一人ひとりが自らの命を守れるよう、防災教育、避難訓練、被害や教訓の継承などを通じ、より一層の防災教育を啓発します。
- 迅速な情報伝達や高齢者等の避難困難者対策など、円滑に避難できるしくみを構築します。

# 土地利用の考え方

防潮堤の整備は「津波防護レベル(レベル1)」に対応した高さで整備します。

この、頻度の高い津波に対応した防潮堤が整備されたと仮定して、最大クラスの津波浸水シミュレーションを行って再現された結果に基づき、ハード整備とソフト対策を組み合わせながら、2つの考え方により地区別復興土地利用計画を作ります。

- ① 高台移転や多重防災により、浸水しない区域へ新たなまちづくりを行う地域。
- ② 建築規制などを取り入れることで、ある一定の浸水を許容する区域も土地利用を行う地域。

# 安全確保のための土地利用の考え方

(シミュレーションによる) 想定津波浸水の深さ		
	土地利用の考え方	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">住居系土地利用（住居は原則可）</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">浸水深さ 2m は建築物に壊滅的被害を及ぼさない深さ。国土交通省の調査では浸水深さ 2m 以下では全壊の割合は約 1/3。これに対して 2m 超では全壊が約 7 割を占める。</div>
避難施設の考え方	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">津波避難施設の整備（避難タワー・避難ビルなど）</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">避難路・避難場所の確保</div>	